

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	コンビニ（経営者）	単価の動き	・中年の男性客が増えているので、客単価が高くなっている。売上は前年同月比104%と伸びている。
	変わらない	一般小売店 [鞆・袋物] （経営者）	客の様子	・客が増えている。以前よりも、現金ではなくクレジットカードを使つての買物が増えている。
		コンビニ（エリア担当）	客の様子	・客単価は前年並みで推移しているものの、来客数減が売上減に直結している。要因の1つとして飲酒運転取締り強化がある。これにより酒の売上が前年を大きく下回り、販売構成比も1%近く落ちている。総菜等の売上も比例して落ちている。この傾向が今月顕著に表れている。
		家電量販店（従業員）	客の様子	・景気の良さそうな客もいるが、大方の客の財布のひもは固く、状況はかなり厳しいと言わざるを得ない。
		通信会社（サービス担当）	客の様子	・新聞等で景気の回復は怪しいと報道されているので、物を見極めて購入する客が多くなっている。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・施設利用者数は、3か月前の2006年9月は前年同月比で113.9%であった。今月も24日現在で110%ほどと高い伸びとなっている。沖縄への入域観光客も修学旅行を中心に前年同月より増加している見込みである。来園者は、修学旅行、一般団体、家族連れが中心である。
	その他のサービス[レンタカー]（営業担当）	来客数の動き	・前年に比べて、予約件数が115%と旅行代理店からの送客数が好調に伸びている。特に年末年始の入込が良い。	
	やや悪く なっている	一般小売店[衣料品・雑貨]（経営者）	単価の動き	・売上高は前年同月比75%である。来客数は例年並みだが低価格商品の購入者が多いため客単価が前年より500円ほど下落している。それが売上減少の要因である。
		百貨店（担当者）	販売量の動き	・天候の影響を強く受けている。前年の反動が大きく、冬物防寒衣料が苦戦している。コート等は前年の半分しか売上が伸びていない。また、実用衣料として紳士、子供服の苦戦も大きく、前年同月比で10~13%減少している。
その他専門店[楽器]（経営者）		販売量の動き	・売上が前年より大きく下回っている。観光客が多い割に、売上に反映されない。	
その他飲食[居酒屋]（経営者）		来客数の動き	・2006年は10~12月とも例年より10~15%来客数が減少している。特に12月は例年なら10日以降は忘年会などで満席状態が続くところが、今年は平日全く駄目で週末集中型になっている。一杯飲んで帰るといような客が取締り強化で平日の飲食を控えている。	
観光型ホテル（総支配人）		販売量の動き	・単価を下げ販売量の獲得を図るが、宿泊客数・単価とも前年同月比で5%減少している。飲食部門・バンケット等も5%減少している。競合施設の増加に伴い、限られたマーケットのシェア獲得が激化している。	
悪く なっている	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・今年は前年に比べると気温が高く、主力の鍋物商材等の季節メニューの動きが鈍く、厳しい状況が月初から続いている。3か月前は全店舗とも前年の売上を上回り好調に推移していたが、今月は前年の実績を下回る店舗が半数近くもあり、景気は悪くなっている。全社合計の売上でも、前年同月比が6~9%ポイント程度下回る見込みである。	
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	会計事務所（所長）	取引先の様子	・取引先の状況が明るく、活気がある。

	変わらない	輸送業（営業・運営担当）	受注量や販売量の動き	・クリスマス商戦・年末商戦において業務受注量が増加しているものの、例年どおりの季節的な要素であり景気回復とは言い難い。燃料費についても若干値下がりにはしているが、まだまだ流動的である。
		通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・法人系ではネットワークの見直しに伴う回線増はあるものの、廉価なサービスが主流である。消費者向け光インターネットサービスでは、サンクスキャンペーンを組んでいるが、他社との競合が激しく期待したほどには受注は伸びない。
		コピー業（代表者）	受注量や販売量の動き	・例年どおり良くない月である。12月の受注目標金額に対し、実質74%にとどまっている。最近では目標金額に達しない月が続いている。
	やや悪くなっている			
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連	良くなっている		-	-
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（営業担当）	採用者数の動き	・年末の時期は採用が決まりにくい傾向が見受けられるなか、今年は例年より採用数が増加している。
	変わらない	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数自体は伸びているものの特段に増加しているということではなく、例年と同じくらいの数値である。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・中小企業が大部分を占めている沖縄での大卒の採用には、やや一服感がみられる。本土のような、景況感から来る大幅な採用の動きは無い。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・製造業の求人は、請負業者からの求人が減ったこともあり大幅に減少している。ただし、輸送用機械器具製造業では直接雇用するようになっている。
	悪くなっている	-	-	-